

人とのつながりを大切にし、豊かな学びをつくる指導計画の工夫

第1学年「あさがお だいすき！つながる つながる」の実践を通して

徳島市津田小学校 教諭 佐々木 裕子

1 はじめに

本学級の児童は、明るく元気で、休み時間になると、親子校舎で虫探しや花見つけをする等、自然に興味や関心をもつ児童が多い。また、約20カ所近くの幼稚園や保育所から入学してくるため、新しい環境や人間関係に慣れるために時間を要する児童もいる。新興住宅等に転入してきた児童は地域や人との関わりが少ない。一方、小さい頃から地元で住んでいる児童は、地域の人や異年齢の人との関わりもあり、生活経験も豊かである。

事前の児童アンケートや、幼稚園や保育所の先生たちからの聞き取りでは、コロナ禍により、以前に比べて、園内外で人と関わることや自然物を使って遊ぶこと等が十分にできていないことがわかった。そのような児童に、生活科の学習で、何より人と関わることの楽しさを味わわせたいと考え、2年間を通じて人とのつながりに重点を置いたカリキュラムを開発することにした。

そこで、本単元「あさがお だいすき！つながる つながる」では、あさがおまつりに向けて友達と一緒に話し合い、つくったり遊んだりする活動を通して、友達の大切さ、自分や友達のよさに気づき、植物だけではなく自分自身も成長していることに気付くことができるようにしたい。そのときに味わった満足感や達成感が一人一人の自己肯定感や自己有用感につながっていくと考える。また、様々な人と関わっていく活動を繰り返し行っていく中で、相手のことを想像し、伝えたいことや伝え方を選び、人と関わることのよさや楽しさを学ぶだろう。そして、学んだことを実生活に生かそうとしたり、新しいことに挑戦したりする意欲や態度をもつ児童を育てることができるのではないかと考え、本研究に取り組んだ。

2 研究の内容

(1) 人とのつながりに重点を置いた年間指導計画

- ① 全学年とつながる年間指導計画
- ② 地域とつながる学校探検

(2) 児童の思いや願いを大切にした単元構想

- ① 友達とつながる表現活動の充実
- ② 幼児とつながる活動の充実



3 活動の内容

(1) 人とのつながりに重点を置いた年間指導計画

- ① 全学年とつながる年間指導計画

昨年度までの年間指導計画を人とのつながりという視点で見直すと、交流する学年に偏りが見られた。人との関わりを深め、豊かな学びとするには、児童にとって一番身近な全学年の児童・教職員と関わるのが大切である。そこで、意図的に全学年と互恵的に交流することができるよう、年間指導計画を立て直した。例えば「ふゆがやってきた」では、これまで1年生だけで昔の遊びを行っていたが、今年度は3年社会科の学習で地域の方から昔のことを学ぶ機会に合わせて活動することにより、多様な人との関わりを生むことができるようにした。

② 地域とつながる学校探検

「がっこう だいすき！」では、通学路で見つけた公園で遊んでみたいという児童の声から、公園をゴールとした通学路探検を行った。その中で、公園を掃除してくれている高齢者や友達の保護者と出会うことができるように、教師が意図的に活動を設定することにより、児童はいろいろな人が自分達のことを見守ってくれているという安心感をもち、住んでいる地域の人に愛着を持つ姿が見られた。また、事前に保育園の先生に連絡を取り、幼児や先生と声を掛け合えるようにし、次单元「あさがお だいすき！つながる つながる」の交流の対象として意識することができるようにした。

(2) 児童の思いや願いを大切にしたい単元構想

① 友達とつながる表現活動の充実

本単元の展開に当たっては、表現活動が十分にできる時間を保障することにより、友達や教師と気付きを伝え合い、友達とつながっていく姿が見られるようにした。まず、自分の考えを隣の席の友達から全体へと段階的に伝える「お話タイム」を設定した。この「お話タイム」を、生活科では毎時間、他教科等でも取り入れ、実践してきたことで、一人で考えることが苦手な児童も、ジェスチャーや絵や言葉など、自分に合った方法で伝えられるようになってきた。すると、朝の活動や休み時間にもあさがおの成長を伝え合う姿が見られるようになった。そこで、児童の伝えたいという思いを大切に、朝の会や国語の時間等、他教科等と関連した単元づくりを行なった。さらに、単元を通して振り返る時間を設定した。入学当初は、3つの表情により振り返りをするのがやっとだった児童も、自分の思いを絵や文で表現することができていた。また、ワークシートに書いたことを友達と伝え合うことで、達成感を感じる姿も見られた。

② 幼児とつながる活動の充実

通学路探検の出会いがあったことにより、児童の中で「自分が育てたあさがおを保育所の先生や子どもたちに見せたい」「幼稚園の子どもたちとあさがお色水で遊びたい」という思いがでてきた。その思いを実現するために、小学校に隣接している幼稚園と通学路探検で出会った保育所の子どもたちをあさがおまつりに招待することになった。あさがおまつりでは、保育所の先生が「どうやってつくったの。」「すごいね。」と褒められたり、幼児から「わたしも一緒にやりたい。」「教えて。」と声をかけられたりしたことで、自分の成長に気付き、自信をもつことができた。



4 研究の成果と今後の課題

2学年間を見通して人とのつながりに重点をおいた単元を多く取り入れ、教師が児童の思いに寄り添って児童の意識の流れを想定した単元構想を設定し、伝え合う活動を工夫した。そうすることで、自分だけに向いていた意識がチームの友達へ、そして、幼稚園や保育所の友達へと、身近なところから段々と関わりが広がり、深まっていった。児童の振り返りカードには、「チームのみんなと話し合ったから、遊びを工夫することができた」「幼稚園の子にわかりやすく話すことができた」と書いていた。一人では不安で、できないことでも、友達がいることで、できることが増え、自信へと繋がった。意図的にチームで活動をしたことで、助け合う気持ちが芽生えたり、友達の大切さに気付いたりすることができた。今後も身近な人との伝え合う活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かり、進んで人に触れ合おうとする児童を育てていきたい。

今後の課題は、校内や地域との協力体制を整えていくことである。今後幼稚園や保育所と密に連絡を取りながら、更に交流を深めていきたい。また、教師自ら地域の人が集まる行事に参加する等、地域の人との交流を深め、人材発掘をしていきたい。